「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論（1）：

定年がうっすら見えてきたエンジニアが突き付けられた「お金がない」という現実

https://eetimes.itmedia.co.jp/ee/articles/2202/28/news037.html　[PDF出力]

今回のテーマは、すばり「お金」です。定年が射程に入ってきた私が、あらためて気づいたのは、「お金がない」という現実でした。2019年には「老後2000万円問題」が物議をかもし、基礎年金問題への根本的な解決も見いだせない中、もはや最後に頼れるのは「自分」しかいません。正直、“英語に愛され”なくても生きていくことはできますが、“お金に愛されない”ことは命に関わります。本シリーズでは、“英語に愛されないエンジニア”が、本気でお金と向き合い、“お金に愛されるエンジニア”を目指します。

2022年02月28日 11時30分 更新

[江端智一，**EE Times Japan]**

今回のテーマは、すばり「お金」です。定年が射程に入ってきた私が、あらためて気づいたのは、「お金がない」という現実でした。2019年には「老後2000万円問題」が物議をかもし、基礎年金問題への根本的な解決も見いだせない中、もはや最後に頼れるのは「自分」しかいません。正直、“英語に愛され”なくても生きていくことはできますが、“お金に愛されない”ことは命に関わります。本シリーズでは、“英語に愛されないエンジニア”が、本気でお金と向き合い、“お金に愛されるエンジニア”を目指します。

うっすらと見えてきた「定年」

心のどこかで「なんとかなる」と思っていたのかもしれません。「誰かが手を差しのべてくれるだろう」とも思っていたのかもしれません。しかし、今のところ、これといった解決策はありませんし、差しのべられる手は、全く見えていません。

定年 —— それは、法律的に解雇が可能となる制度（定年制）による上限年齢です。そして、私も、定年までに残された時間は、もう、そんなにありません。

今のところ、私は、酒、タバコ、（昔なら、この後に”女”と入るところですが、今は、そういう時代ではありません）は一切やらず、健康面においても問題ありません。ここ数年で、いきなり体調が悪くなる気配もありません。能力的にも、（主観的には）著しく劣化しているとは思っていません。問題は、『**ほとんどのシニアが、上記のような主観的な自己評価をしてしまう**』ということです。

大抵のシニアは、「シニアになる」というだけで「権力」になってしまいます。たとえ、本人が”それ”を望まなくても、です*）。

＊）関連記事：「あなたは“上司”というだけで「パワハラ製造装置」になり得る」

そして、往々にしてシニアの考え方は、本人が”それ”を望まなくても、**保守的なものとなり、新しいモノ／コトを排除する方向に働きます**。なぜか —— 自分の経験から、いろいろなものが「見えて」しまうからです。『ああ、これは間違いなく失敗するな』というシーンが、度々、私たちの目の前に展開されます。

『それはやめておいた方がいいよ』『もっと、注意しておく方がいいよ』と語りかけるアドバイスは、若い人たちには、『そんなものはダメだ！やるだけ無駄だ！』『事前の検討が足りない！』という叱責に聞こえるのです。

ええ、そうです。私（江端）も、若いころは、そう聞こえました。そして、何もかもにケチをつけてくる上司に、ひどく傷つけられ、心底恨んだものです（ちなみに、私は、今でも腹を立てていますが）。

このシニアの生み出す『後進性』が、最もひどい形で実体化されているのが「国会」と「町内会」です＊）。

＊）関連記事：「デジタル時代の敬老精神 ～シニア活用の心構えとは」

もちろん、シニアの中でも、無自覚なパワハラを発生させることなく、能力を発揮し、新しい考え方を取り入れ、チャレンジを続け、皆から慕われ信頼され続けているシニアがいます —— **“私（江端）”です**。

が、ぶっちゃけ、そんなこと（江端のたわ言）はどーでもいいのです。問題となるのは上記のような「シニアの負の側面」なのです。

なぜ、企業は高学歴の学生を採用したがるのか？　高学歴の学生が、必ずしも優れた社員になるという保障は全くありません。しかし「ハズレの確率が低くなる」のは事実です。いわゆる「シグナリング理論」です（関連記事：「心を組み込まれた人工知能 ～人間の心理を数式化したマッチング技術」）。

シグナリング理論を、そのままシニアに当てはめてみれば、「シニアの過去の成功体験というシグナル」は、次の世代においては、新しい試みを妨害し、禍々しい光を放ち続けるシグナルです。そういうシグナルは、静かに消えていき、次の世代への『穏やかな権力譲渡』が望まれているのです。

だからこそ、定年制というのは、企業体が生き残るために、必要かつ不可欠な制度なのです —— と、私は、ずっと言い続けてきました —— **『自分がその当事者になる』と自覚するまでは**。

再掲:定年制とは何か

一言で言えば、「合法的な解雇が可能となる制度」

分野	具体例	
定年の意義	労働者が一定の年齢に達すると自動的に雇用関係が終了する仕組み	
背景	基本的に、労働者は簡単に解雇できない(労働法) → 相当に厚い「労働者保護」	
根拠条文	「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」	目的：高齢者の(A)安定雇用の担保,(B)再就職の促進,(C)雇用機会の確保
		定年は60歳を下回ってはダメ(8条) 原則65歳にしろ(9条)
		65歳にできないなら、会社は、65歳までの雇用の世話をしろ(「高年齢者雇用確保措置」)。その世話をする専任者を決めておけ(11条)
法律の本音	■60/65歳までは、雇用は法律で守ってやる	
	■しかし、例え、労働組合であっても、60歳(または65歳)の規定を、これ以上の年齢にするなど、ガタガタ言うな	
その他	定年退職者に対する就業支援をすること(シルバー人材センタ)	
	■会社に対する刑法上の罰則規定なし(56条) ■しかし、厚生労働大臣の名前で、「会社名を晒すぞ」(10条3項)の恫喝がある ■勿論、個人として会社に対して民事訴訟の提起は可能	

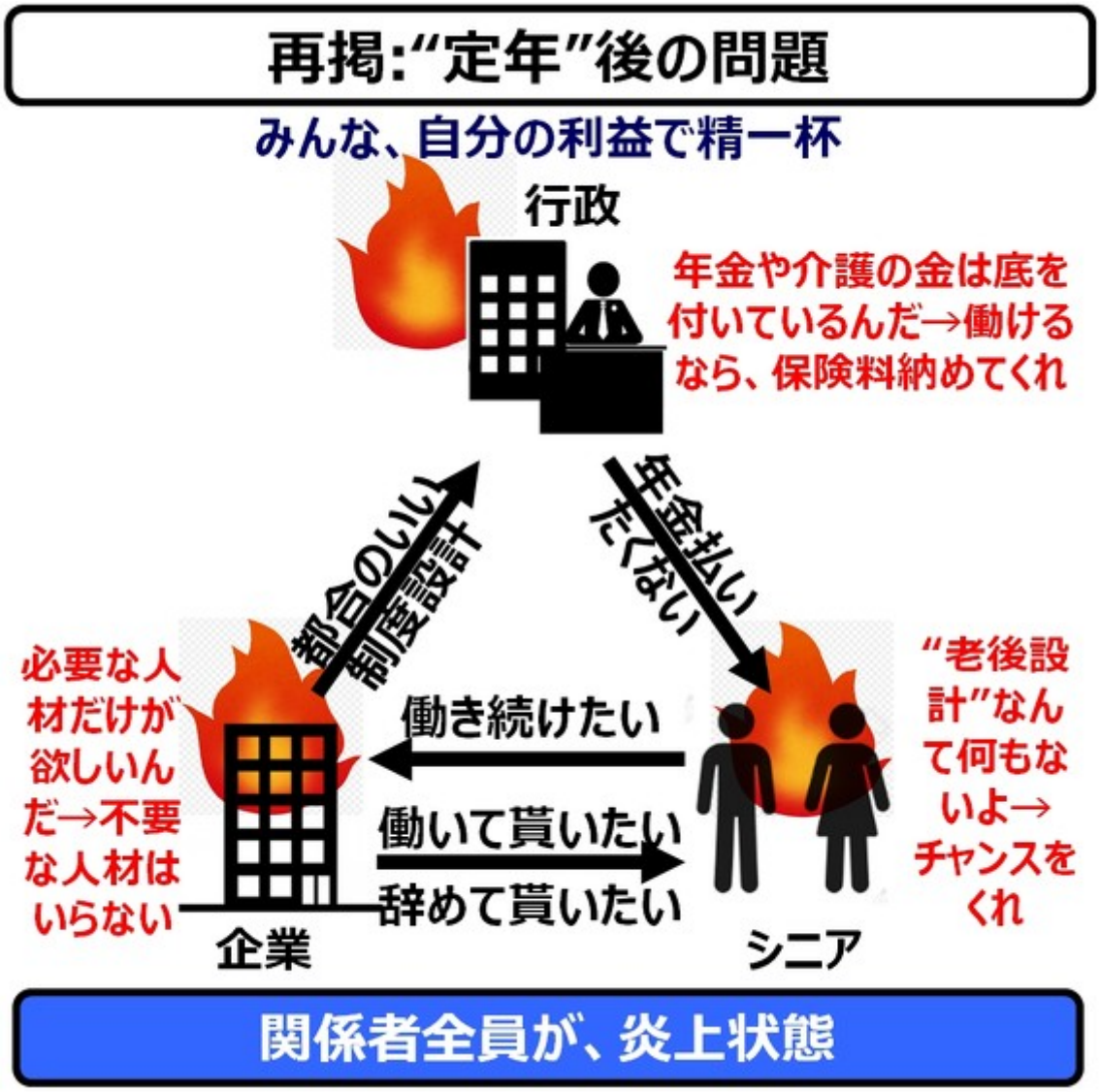
会社から『あなたは、もういらない』と言われても、一切、抵抗できない制度

私はこれまで、100本以上のコラムや特許を執筆・発表して、いくつかの会社との協業プロジェクトも担当し、国際学会の発表もして、自分のプレゼンには余念がなかったと思っていたのですが —— 結果として、一向にやってきませんでしたね、**ヘッドハンティング**。

出版や講演のオファーはほとんどありませんし（いくつかは、方針が合いませんでした）、学会や研究機関からのお誘いなどは絶無です。

私、『我が国には、あなたが必要なのです』と熱く語られれば、うれしくなって、近所の大陸だって、隣りの半島（の北側）だって、**ホイホイとついて行ってもいいくらいの気持ちがある**のですが —— いや、本当に、全くもって、どこからもお声がかかりません（声をかけてくれたのは、EE Times Japanくらいです）。

こうなれば、もはや、認めるしかないでしょう —— **『私（江端）には、市場価値がない』**という事実を。



私の価値は、しょせんは、私という世界の中での評価に過ぎなかったようです（なんか、書いていて、情けなくて泣きそうな気分になってきました）。

将来の私は、「私の適性に応じた仕事を選択する」などというぜいたくは許されておらず、「どんな仕事でもやらせて頂きます」という態度で、仕事を頂きながら生きていくしかないようです —— まあ、考えてみれば、これまでと同じと言えば、同じですが。

『江端君。つまるところ、最後にモノを言うのは、”健康”だよ』と言った、かつての上司の言葉が、乾燥した大地に水が染み込むがごとく、深く理解できるようになりました。

あらためて気付く。「お金がない」

まあ恐らく、私は定年後に、会社からポイっと放り出されることになるのでしょう。まあ、それは仕方がないこととして、私はこの段階で、あらためて「**お金がない**」という現実に気が付きました。一言で言えば、収入が断たれた場合、今の生活水準を維持したまま喰いつなごうとしたら、”3カ月と持たない”という事実です。

この「お金がない」も、前述の「定年」と同じです。心のどこかで「なんとかなる」と思っていたような気がします。

私は今まで、これだけ悲惨な将来の日本（少子高齢、年金、介護、雇用、自殺、国際化、教育、その他いろいろ）について計算しつくした人間ですが、「**大局を計算できても、自分自身を計算するのは恐ろしい**」のです。

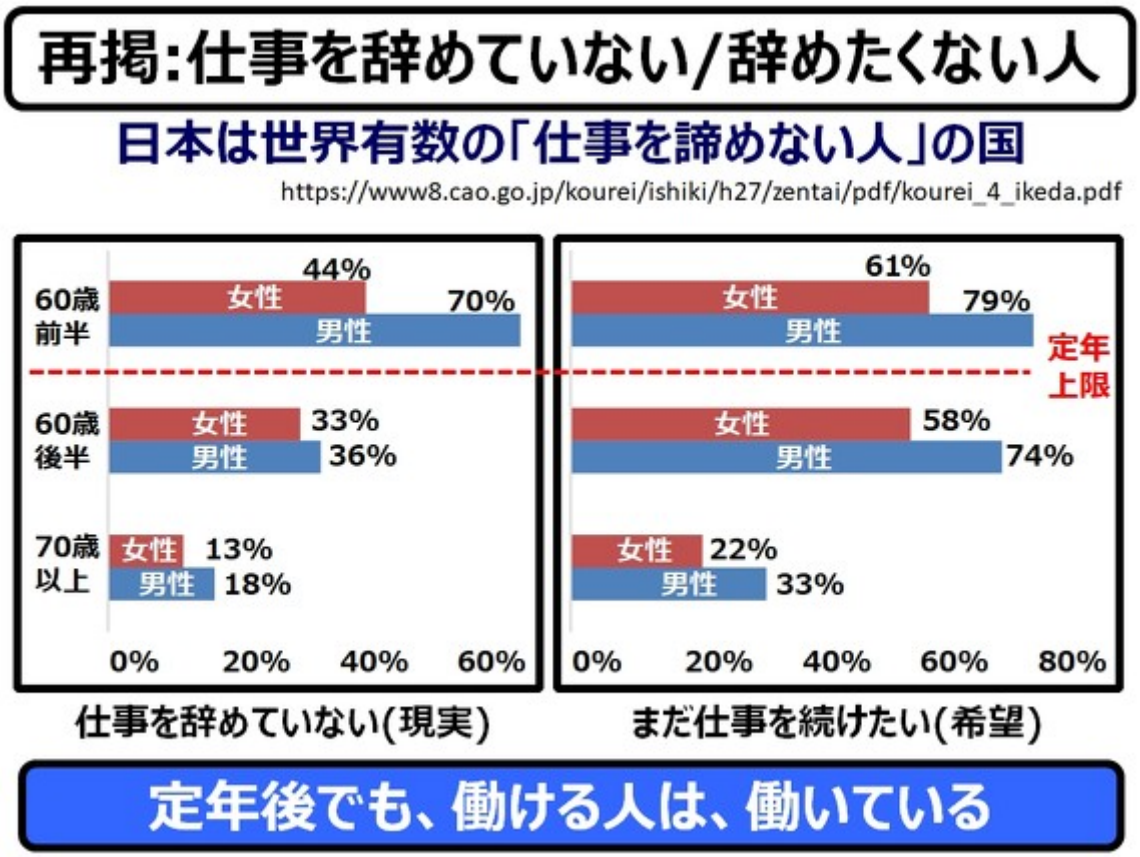
それは、私がTOEICの受験を忌避し続けてきた心理にも、よく現われています＊）。社会や政治を数字で追いこむことはできても、自分を数値で評価するのは、嫌なものなのです —— そして、その結果が、今のこの有りさまです。

＊）関連記事：「TOEICを斬る（前編） ～悪魔のような試験は、誰が生み出したのか～」

定年によって収入が途絶えても、家のローンは続き、次女の大学費用を捻出しなければなりません。

それ以上に、私は、これからも、このようなブログを書き続けられるだけの「ささやかな生活」を維持して、電気代や食事代や**書籍代やパーツ代（ラズパイの部品や、PCの周辺装置の代金）**を、心配することなく生きていきたいのです。

しかし、定年後を考えると、現在の生活の質を変えることなく生活を維持するのは、難しそうです。ですから、定年後、どんな仕事もやるつもりではあります。私と同じように考えている日本人が、結構多いことは、以下のデータからも明らかです。



参考：「高齢期就業の男女比較―４か国比較からみた日本の特徴 ―４か国比較からみた日本の特徴 ４か国比較からみた日本の特徴―」

私は、（1）ノルマや納期のない気楽なプログラミングと、（2）好きなことをコラムとして執筆して寄稿し続けることができるような、今の生活を続けたいのですが —— ぶっちゃけ、無理そうです。自分のやりたいことだけで生きていけるほど、この世の中は甘くないのです。

人生は、自分の「やりたくないこと」と「やりたいこと」の、組み合わせで運用しなければなりません。そのためには、「やりたくないこと」の中に、「やりたいこと」を混在させる、あるいは、その逆を仕掛けていく工夫が必要なのです。

こんにちは。江端智一です。今回から、新連載「**「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論**」を始めたいと思います。

このシリーズでは、『どんなに一生懸命英語を勉強しても、英語に愛されない者は、何をしても愛されない』というあのシリーズと同じ路線を踏襲し＊）、お金に愛されないエンジニアが、知識ゼロの状態から、トライアンドエラーで「お金」を試していくという『ライブ配信型コラム』を行っていきたいと思います。

＊）関連記事：「英語に愛されない者は何をしても愛されない、という出発点」

つまり、裏を返せば、今現在の私は、お金に関する知識もなければ経験もない、ということです。

いずれしても、今回のコラムで、私は1円もお金を動かしていませんが、最終的には、EE Times Japanから、これまで頂いた報酬（原稿料）を、全額突っ込むくらいの気概で取り組んでいきたいと思っています。

素人の投資は、プロのカモ ―― は分かっています。そして、そのリアルもかなり知っているつもりです（例えば、ビットコイン＊）などで）。加えて、私は、お金に関して「石橋をたたいて、たたき壊す」というくらい臆病です。

＊）関連記事：「ビットコインの正体 ～電力と計算資源を消費するだけの“旗取りゲーム”」の後半

できれば、投資や投機などには関わることなく、一生を終えたいと思ってきましたし、今でも、そう思っています。

しかし、今の私には（そして、今の日本では）、そのような「イヤだ、キライだ、やりたくない」は通用しない世界になりつつあるようです ――これについても、この連載で明らかにしていきたいと思っています。

第1回の今回は、この連載に至った背景を、ざっくばらんにお話していきたいと思います。本格的なアクション（投資の商品、決算書の読み方、財務諸表のプログラミングによる分析方法、等）については、次回以降から始める予定ですので、本日は気楽に読んで頂きたいと思います。

「株式会社“日本”」の業績を考えてみる

まず、私は「江端の定年後」という観点から、お金について真剣に考え始めました ―― ここで大切なのは、「江端の定年後」のことだけであり、その他のこと（他人の人生、世界経済、SDGs、格差社会、貧困家庭等々）は、「**どーでもいい**」ということです。正直、世界がどうなろうが、私の知ったことではありません。

本シリーズで私(江端)が調べたいこと

お金に関する雑多な疑問が、全然分からない

#	項目	
1	なぜ日本だけが、こんなに「儲からない」国なの？	平均GDP増加率が、中国は別格(14%)としても、アメリカ3%、ドイツ4%で、**日本だけ1%**って、一体どういうこと？ 誰が悪いの？
		なんで、これで、**世界第3位でいられる訳？**
3	なぜ、私の「広告収入」は、上手くいかないの？	クリック型も、アフィリエイトもやってみたが、**全然お金が入ってこない**
4	投資教育って何やるの？	2022年から、高校生だけ教えてもらえるって、**ズルくない？**
5	老後資金に関する「あの話」は本当なの？	老後資金が**2000万円足りない**って本当なの？私の引退後生活はどうなるの？
6	年金大丈夫なの、大丈夫じゃないの？	日銀の話がでてくると、必ず出てくるフレーズ**「自分で自分に借金している」**は、聞き飽きて―― **そして、今も、さっぱり訳が分からん**

日本がどうなろうと知ったことではないが ――
私の「お金」に関しては、別

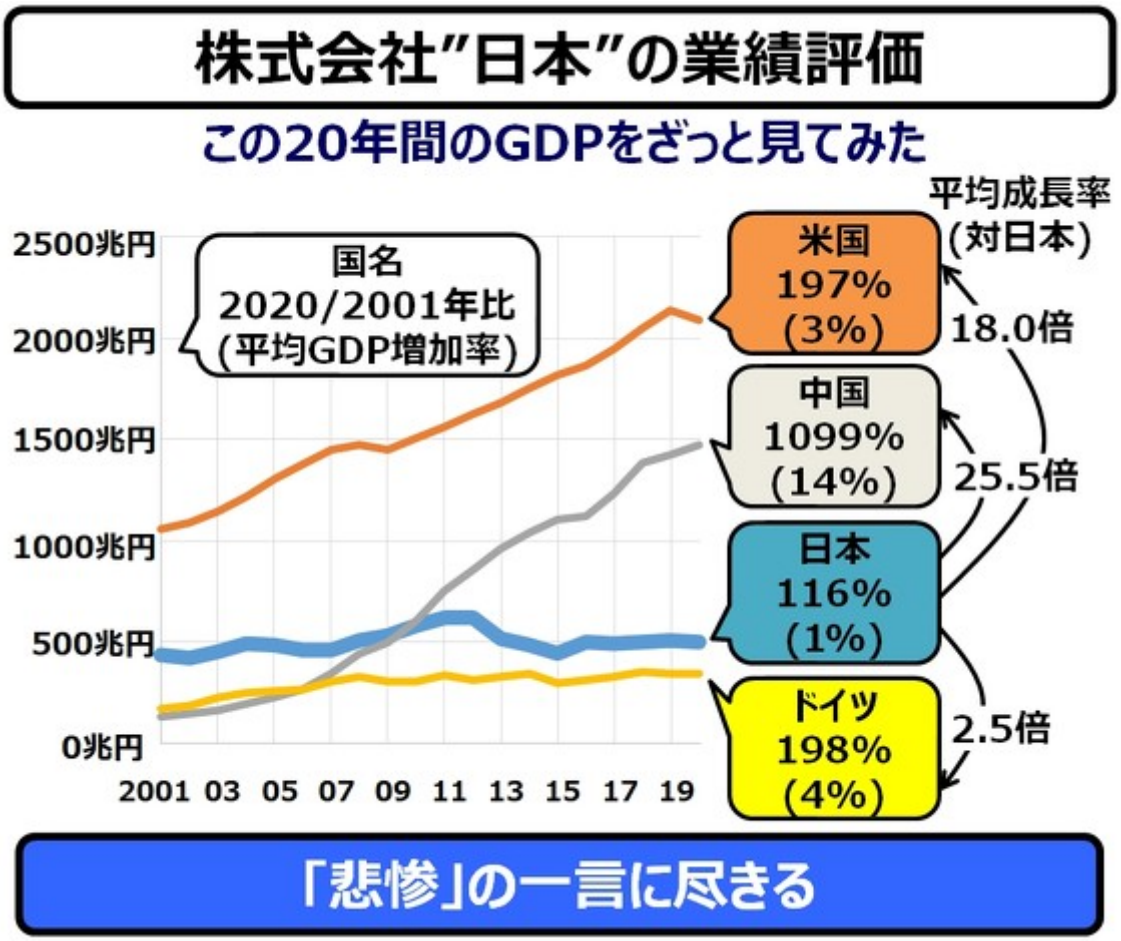
今回は、これらのいくつかについて、私が手当たり次第に調べたことを、語らせて頂きたいと思います。

まず、最初は「**日本が世界第3位の経済大国**」であるという話から始めていきたいと思います。

太平洋戦争の敗戦のどん底から、奇跡の復興を遂げて、米国に次ぐ、世界第2位の経済大国になった奇跡の国 ―― これが、私たちシニアが何度も繰返し教えられてきた、我が国定番のサクセスストーリーです。

2009年に中国にGDP（国民総生産）第2位の座を譲り渡しましたが、現在も世界第3位の地位にはいます。ちなみに、GDPついては、こちらの記事「誰も知らない「生産性向上」の正体 ～“人間抜き”でも経済は成長？」に、「カツ丼」で理解するGDPの解説があります。

しかし、我が国のGDPが世界第3位であろうとも、個人当たりの所得は世界31位、個人収入は、米国の平均給与の60%未満です。以下に私が作った衝撃的なグラフと計算をご覧頂きたいと思います。



出所：National Accounts - Analysis of Main Aggregates （AMA）

まず、2020年と2001年のGDPの単純比率は、日本ではわずか16%（116%-100%）の上昇に滞っていますが、米国やドイツは約2倍（97,98%）、中国に至っては10倍（999%）になっています。

日本のGDPの平均増加率を1とした場合、ドイツは2.5倍、米国は18倍、中国に至っては、22.5倍です。

日本の会社の純資産の成長率で言えば、米国とドイツは"トヨタ自動車"、中国の成長率に匹敵する日本企業は見つけられませんでした（規模感で言えば、"ソフトバンク"くらい？）。

比して、日本の成長率を俯瞰して眺めると、『**学校の近くにある、老夫婦が経営している文房具屋**』とか、『**高齢者しか住んでいない公営住宅の中にあるソバ屋**』と同じような感じです。

はっきりいって、20年間で、成長率年間1%などというような会社が、上場を続けるのは難しいでしょうし、そんな会社は株主総会において全会一致で経営陣全員の退陣が可決されるか、良くて買収、悪ければ倒産です。

いっそのこと、日本政府は、中国の国債を大量購入した方がマシなんじゃないか、と思えるほどです（もちろん、そんなことはできませんが）。

株式会社"日本国"で、こんなふざけた経営を続けているのは一体どこの誰だ？ と文句を言いたいです。

私のような民間企業に努める社員であれば、「**政府の経営音痴**」と罵倒したくなります。しかし、政府から言えば「グローバルに勝てる商品やサービスを生み出すことのできない民間企業の努力不足」と反駁したくなるでしょう。

もしかしたら、私たち一人一人が、政府に丸投げせずに、タンス貯金などせずに、自分たちの頭を使って国内企業に”投資”を行えば、もうからない会社を早々にたたきつぶして、もうかる会社だけに資本が集まる仕組みを作れたかもしれません。**つまるところ —— 現存の仕組みを変えたくなくて、新しい価値に積極的に投資を行わない、私たち日本人が悪い**、とも言えるかもしれません。

しかし、この話、そんなに単純なものでもないようです。この話も、この連載で続けたいと思います。

お金に関する「江端の黒歴史」

以下の表は、お金に関して、世間に踊らされてきた、江端の黒歴史です。多分、これ、内容や規模の差はあれ、ほとんどの人が体験してきたことではないか、と思うのです。

江端の「お金の黒歴史」

黒歴史は、”バブル”から始まった

#	やってみたこと	具体例
1	バブルの時に、株を購入したりしてみた	当然、**バブル崩壊で大暴落**
2	日経新聞を購読してみたりした	「**日経新聞読んだって、別段何も変わらないよ**」が結論 —— そもそも、楽しくない
3	確定拠出年金のメニューを自分で選んでみた	50万円以上のお金を、**簡単に失った**
4	仮想通貨(暗号資産)を調べてみた	なぜ、これが「債券」になるのか分からない(まま)。「**手を出さない**」が正解だと結論
5	残金を調べてみたら(江端家に)お金がないんですが	**老後不安だらけ**

「なんとかなる」では、『なんともならない』フェーズに突入

何が言いたいかというと、私は、世間のブーム（バブル等）に乗せられて、”投資”のようなものをやったり、入社して「日経新聞」の購読を開始してみたり、会社で強制された確定拠出年金のメニューを自分で設定したりしましたが —— **無駄、無益にとどまらず、（個人としては）大損しました。**

「お金」に関して、私は、これまでの人生の全てで、全戦全敗に帰してきたのです。私が、「お金」に恐怖を感じて、その問題から逃亡してきたのは、無理からぬことだと思うのです。

そして、定年をひかえたシニア江端の前に、明るい未来は見えません。病気、再就職、コミュニティー、その他の問題の中でも、最大の不安は「お金」であり、加えて、私には**その不安の原因を直視する勇気がない**のです。

“シニア”江端が直面している恐怖

安心な自分の未来が見えない

#	私の気持ち	具体例
1	何もかもが「本当に心底から怖い」と思う	(a)**(本当に本当の意味で)お金がない**、退職後どうして良いのか分からない、いつ認知症がスタートするのか分からない → ここ1～2年特に怖くになっている
		(b)「見えない恐怖」との日々は辛い→これまでの**『なんとかなる』という経験則が、ここから先も通用する**のか？
2	現実は「見たくない」	(a)**嫌な現実は「見たくない」** → 目を瞑って、耳を塞いで生きていたい
		(b)自分から見に行くことは絶対にないし、**他人に勧められても、見に行かない**
3	「誰かと上手くやっている私(江端)」をイメージできない	(a)歳を重ねて、どんどんガンコ/怠け者になっているのを痛感している → **考え方の違う人と付き合うのは、それだけですでに苦痛**である
		(b)すでに町内会とは、「ガチンコ」やってしまっている→**私には地域コミュニテイで生きる場所はない**

苦境、ここに極めり

一言で言えば —— **私は、ヘタレなのです**。私はあまり社会とコミットしたくないのです。1人の世界でヌクヌクしていたいのです。『閉塞した世界こそが私の楽園』というわけです。

とはいえ、今さら『外部に向けて開放的でありながら、内部に対しては客観的に自分を観察し、つねにオープンマインドで、積極的で、活動的で、多くの人とコミュイティを図りたいと思えるような人間となるように自己改造をする』ことは無理です。それは、もう、私ではない別の世界線の別人です。

ブログで「不労所得」は可能なの？

私は、そのような人格改造をせずになんとかしたいのです。そして、その一つが、働かなくてもお金が入る仕組み、つまり、不労所得への道です。

私は、その「不労所得」の戦略として、「**ブログ収入**」にトライ中です。

私のブログの第一の目的は「メモ」であり、そのメモは、未来の自分に向けての備忘録です。

（1）同じ作業を、後日、同じ時間と手間を払って行うのはバカバカしいのでメモを残しておくが、（2）未来の自分だけが分かりさえすれば良いいので、丁寧な説明はしない、と割り切っています。また、（3）未来のコラム執筆時のネタを書き残しておきたい、という気持ちもあります。

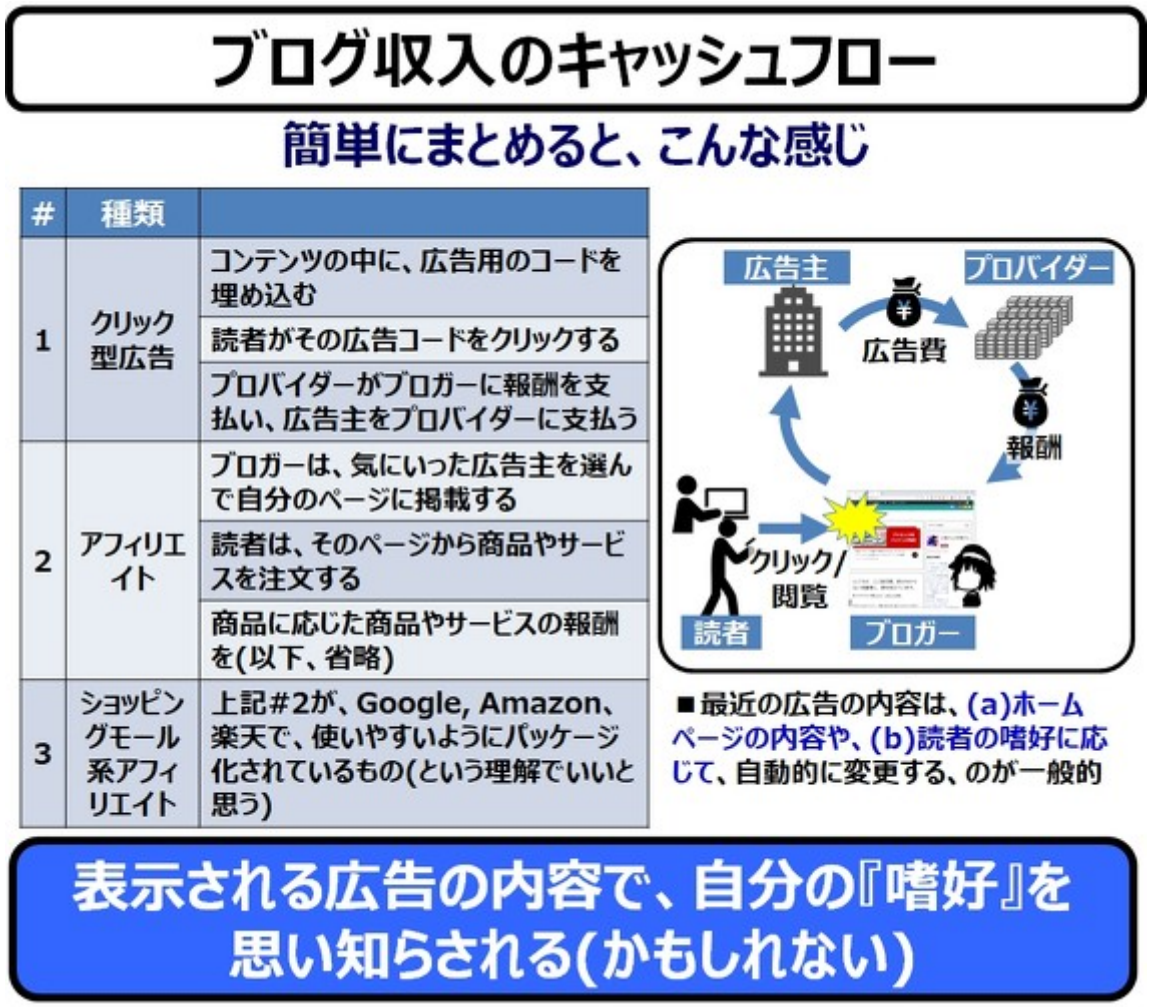
いずれにしても、お金が目的で、ホームページを始めた訳ではありません —— が、それでも、もちろん、お金になるものなら、お金は欲しいので、後付けのように「ブログ収入」の施策を、試みているのです。

具体的には、自分のホームページの中に、手当たり次第にいろいろ仕込んでいます。

ホームページやブログでの収入は、簡単に言えば、「広告」です。自分のページの中に広告を埋め込んでおき、その広告をクリックした回数等によって、広告収入として収益を得るもので

す。

　ざっくり、この広告による収入には、以下の3つの種類があります。



　どの方法も、その広告をクリックすると、別のページ（広告主）にジャンプする、という点では同じです。

　例えば、私は、自分が開設している本屋の広告を差し込んだり、あるいは、江端がAmazonで購入した3Dプリンタについてのブログ記事の中に、その3Dプリンタの広告に飛ぶようなリンクを入れてみたりと、**事前にページの中に仕込みをします**。

　ただ、この「仕込み」は結構面倒くさいので、**広告プロバイダーに丸投げ**もしています。広告プロバイダーは、記事の内容や、読み手の嗜好を分析して、**勝手に広告の内容を変更します**（最近では、こっちが一般的です）。

　例えば、江端のブログの内容が、英語に関するものであれば、広告プロバイダーは、江端のページの広告の内容を「英語教室」に差し替えます。また、江端のブログの内容に関係なく、読み手が二次会の会場を捜していることが分っていれば、私のブログの中でも、「居酒屋」の広告が出てきます。

　ですので、

「最近、お前のサイトにアクセスすると、エロ小説、エロマンガの広告が出てきて、大変不愉快だ！」

というクレームを掲示板に投稿してきた人に、サイトの運営者である私は、

『それは、あなたが、日常的にエロ小説、エロマンガの検索をしているから、その広告が出てきたのです。あなた以外の人には、その広告は出てきません』

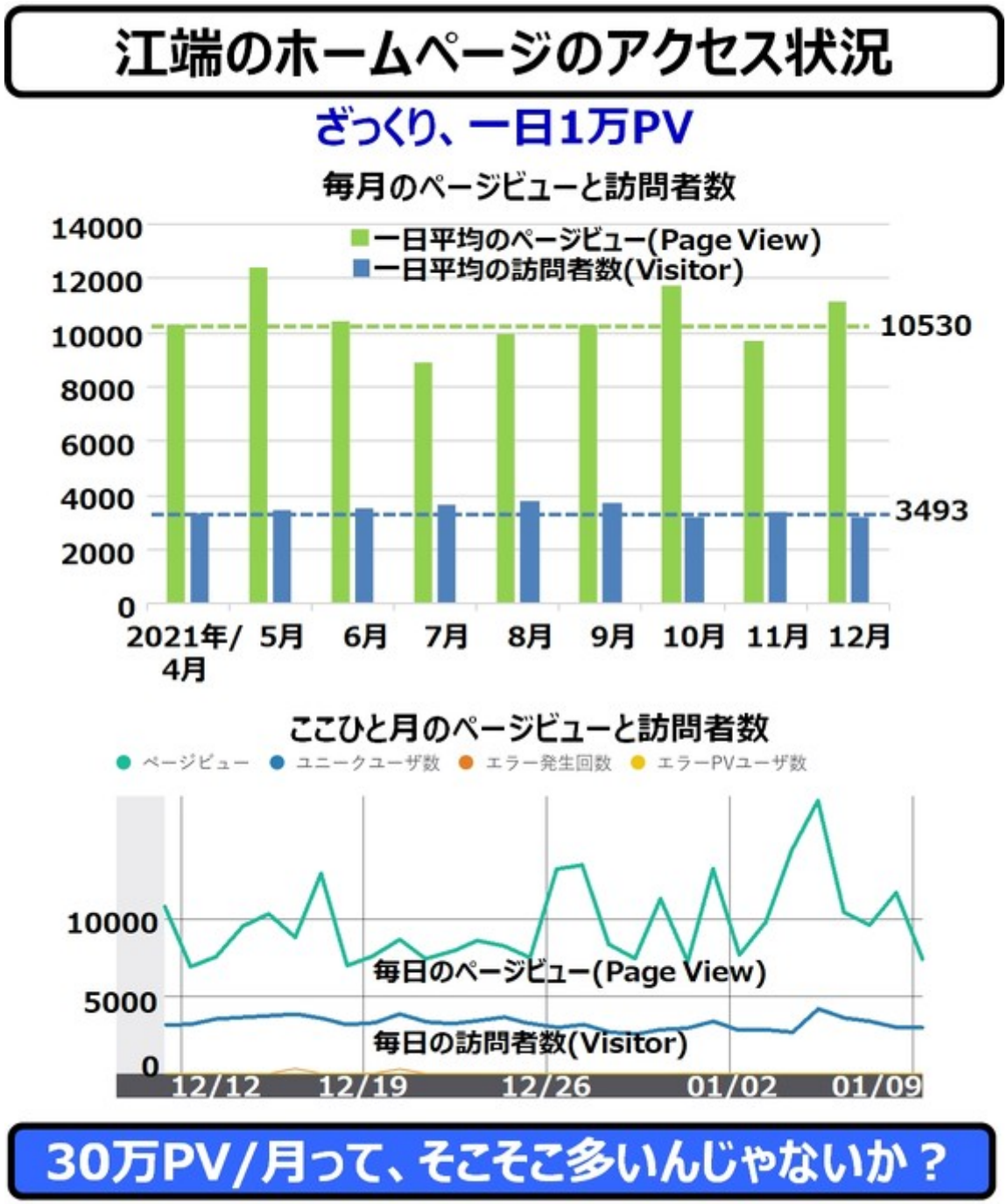
と返事を書いて、その人に恥をかかせることができます（実際、こういう事例を見たことがあります）。

　このように、私たちのプライバシー（嗜好、性癖、変態性、その他）は、ネットを使っている限り、（少なくとも広告プロバイダーには）バレバレなのですが、まだ、この認識と諦観（あきらめ）に至っていない人が多いようです＊）。

＊）例えば、こちらのページの『あなたのことは全て「バレている」』のくだり。

実は「エキスパート」ランクだった、江端のブログ

　さて、江端のホームページに対するアクセス状況（PV:ページビュー、訪問者数）について、サーバに残っていたログ解析したところ、以下のような結果が得られました。



1日1万PV、月間30万PVというのが、どの程度のものか、私には分からなかったので、ちょっと調べてみました。

こちらの記事によれば、私のランクは「**エキスパート**」で、**月のブログ収入は10万円～50万円以上**とのことです。

それでは、私のブログ収入（2021年分）を開示いたします。

結論から言えば、私のブログ収入は、**1日30円、1カ月で900円でした……。**『10万円～50万円以上』って、どの世界線のブログ広告の話でしょうか？　ブログの執筆に費やす時間は、1日当たり確実に1時間を越えるので、時給30円以下ということです。

つくづく、私は「お金に愛されないエンジニア」だなぁ、と実感しています。

とはいえ、私、一度もちゃんとしたブログ広告収入戦略を考えたことがないし、なにより「ギラギラ、ガツガツ」していない、という自覚があります。そんな中途半端なブログ運営者に、お金が落ちてこないのは仕方がないのかもしれません。

どなたか、私にコンサルしてくれるという人がいれば、歓迎いたします。

政府の「開き直り」

さて、話を戻しまして、このような日本経済の長期間に渡る低迷に対して、日本国政府はこれまでいろいろ手を打ってきましたが、どうにもうまく回すことができていないようです。なんか、最近は、『**もうダメだぁ**』と諦めているようにさえ見えます。

例えば、「働き方改革」って言葉自体、コロナ禍ですっかり吹き飛ばされた感があります ―― もっとも、コロナ禍によって、20年近く、全く動かなかった「働き方改革」（の一部）が、あっと言う間に動き出した、という側面もありますが＊）。

＊）例えば、コロナ禍前のテレワークの実体の例「あなたは“上司”というだけで「パワハラ製造装置」になり得る」

これまでは、「お金の運用は政府に任せろ。お前たちは、ひたすら勉強し、ひたすら働いていれば、適度に快適な老後と、人間らしく死ねる環境は提供する」と言っていたような気がするのですが ―― 2020年4月から高等教育（高校）で導入される金融教育の指導要領を読んでいると、

『もう政府には、打てる弾（タマ）がありません。限界です。これからは、生き残るためのお金は、自力でなんとか工面してくださいね』

という、政府の「開き直り」を感じるのです。

正直ゾクッとした「金融教育」の内容

私が、指導要領から読み取った、高校の金融教育の指導要領は、以下の通りです。

高校から始まる「金融教育」(1)

2022年4月からスタート

項目	観点	言われていること	江端の所感
狙い	老後	はっきりいって、国は年金を払えない。子どもがいないから	「払えない」の内容は、もっと具体的に分からないのか？
	成人	成人年齢引下げで、「子ども」を理由とする「契約無効」ができなくなる	うん。そりゃ、契約の勉強もせずに、社会に放り出せば、必ずトラブルになる
	体裁	先進国の中で「日本だけ」が金融教育やっていない	そうだろうなぁ。世界的に見ても、日本人っていいカモだと思う

お金に関して、私たちはヒヤヒヤするくらい無知

メインターゲットは、「老後資金」であるのは間違いありません。そして今、ホットなのが、「保護者の同意のない契約が可能となる年齢の引下げ（20歳→18歳）」です。そして、日本人のお金に対するリテラシーの低さは、海外旅行をするだけでも、簡単に目にすることができます（が、この話は、今回は割愛します）。

お金全般に対して、日本人には「誰かが、なんとかしてくれる」という、甘えの構造が垣間見られます（もちろん、私もその1人です）。

しかし、高校の金融教育の内容は、極めて現実的で実践的なものになるようです。

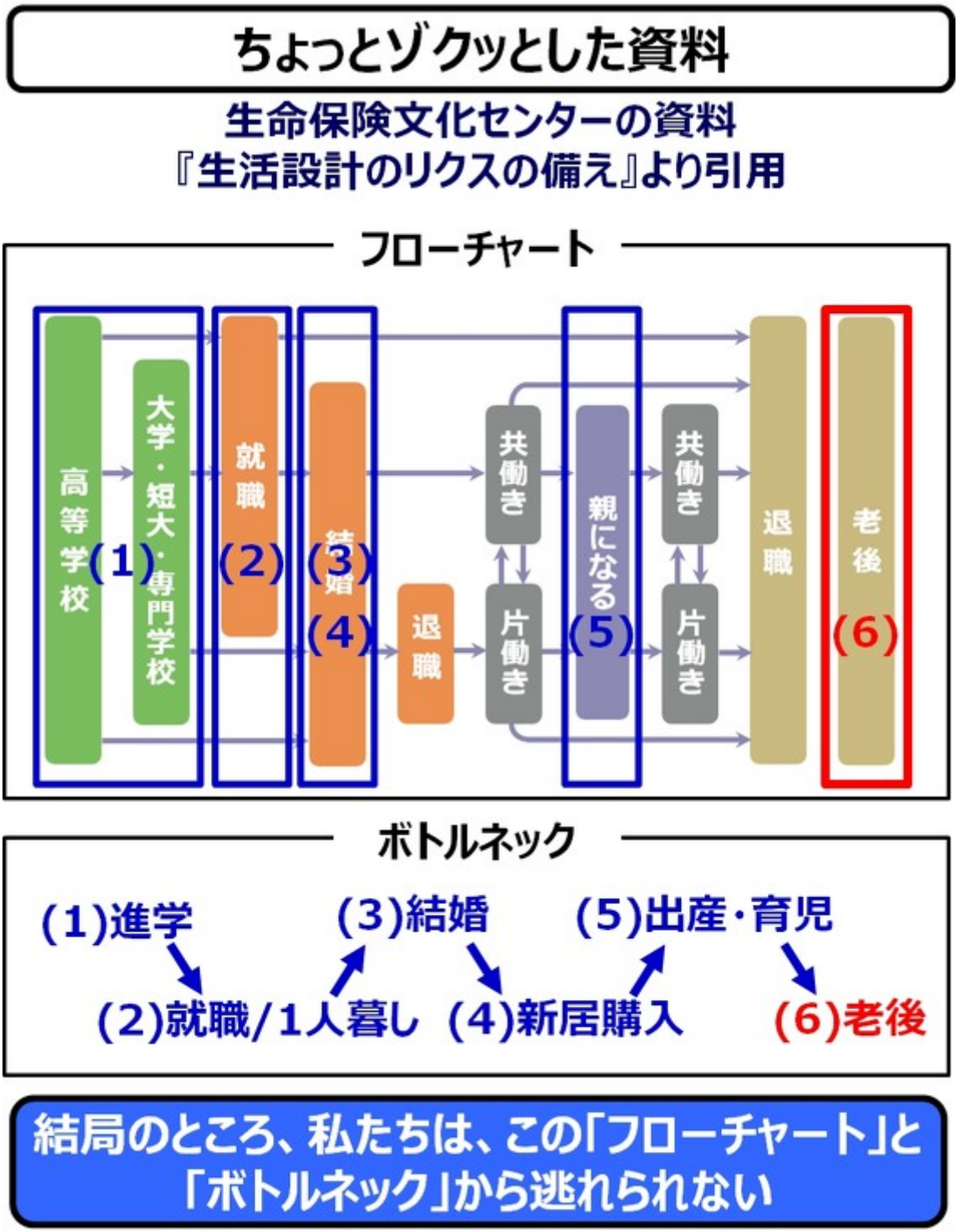
高校から始まる「金融教育」(2)

観点は、「お金」の"計画"と"管理"

項目	観点	具体的な内容	江端の所感
内容	家計プランニング	(1)結婚資金、(2)育児/教育資金、(3)住宅取得資金、(4)老後資金、(4)リスク(事故、病気、失業等)に対応資金 —— 等の計画	こっちがユースケースを使った具体例
	家計マネージング	(1)収支のバランス (2)リスクに備えた手段(貯金、保険) —— 等の運用	こっちは基本例

要するに、高校を卒業した後の人生のイベントと、そこで必要となるお金に関する基本的な知識（こちらが計画（プランニング））と、そのイベントに関わるお金の収支バランスとリスクに関する手法（こちらが管理（マネージング））です。

ここで、ふと気がついたのですが、これは、若者に対して、『お前のこれからの人生って、おおむね、こんなイベントがあるよ』と教えているようにも見えます。ですが、別の見方をすれば —— **お前のこれからの人生は、しょせんはこのフローチャートの範囲内で納まるものなのだよ**、と、伝えることでもあると気が付きました。正直、ゾクッとしました。



ちょっと考えてみましょう。

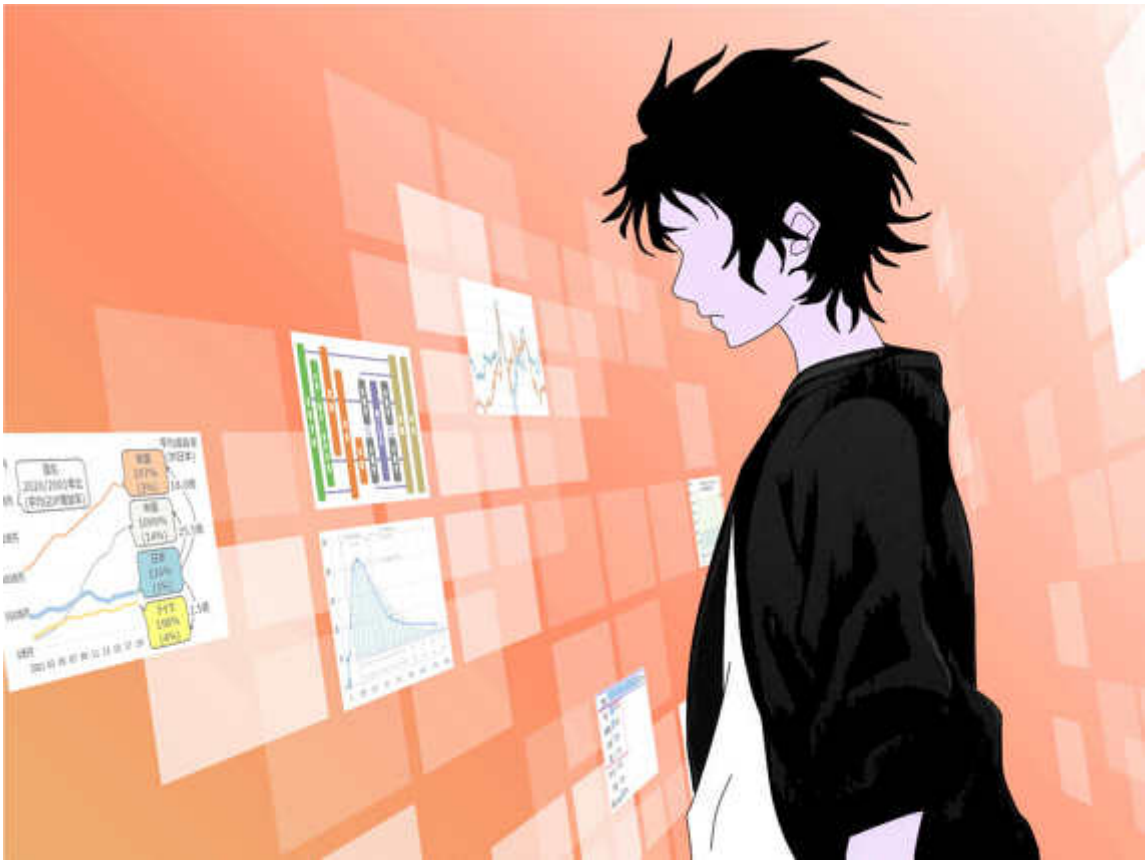
ここに「アイドルになる」「お笑い芸人になる」という夢が入ってきたとして、仮にその夢がかなったとして、上記のフローチャートから外れることができるでしょうか？

「ベンチャー企業を立ち上げる」でも、「ノーベル賞を受賞する」でも、何でも構いませんが、つまるところ、上記のフレームから外れるケースは、まずありません。

たとえ「**レールの敷かれた人生は嫌だ！**」と叫び、レール以外のところ（歩道でも、野原でも、密林でも）、どこを通って生きても、それは個人の自由です。

しかし、それでも、結局のところ、私たちは誰もが、上記の「ボトルネック」は通過せざるを得ず、そのボトルネックではかり大きなお金の入金／出金が発生する、という事実からは逃れることができません —— これは私のようなシニア、つまり、人生を振り返る側の者から見れば、自明の事実です。

—— 高校の金融教育は、若者に対して、自分の人生のフローチャートとボトルネックから逃れられないことを冷酷に宣告して、覚悟を迫るものになる



少なくとも、私が高校の時は、そういう「逃げられない人生のフローチャート／ボトルネック」のような話はなかったと思います。それは、それで幸せだったかもしれません。

さて、高校の金融教育は、単なる「人生のフローチャート／ボトルネック」の話にとどまりません。その「将来の人生のボトルネック」での立ち振る舞いのトレーニング（シミュレーション）を、「今」やらされるのです。

高校から始まる「金融教育」(3)

未来の自分をシミュレーションさせられる

項目	観点	具体的な内容	江端の所感
実施例	シミュレーション	(1)(仮想の)給与明細を使った家計の構造や収支バランスシミュレーション	(A)高校によって、(仮想の)給与明細書、とか(仮想の)進学先とか、(仮想の)住宅購入計画は異なるのだろうか――授業が「暗く」ならないかな？
		(2)(仮想の)高校卒業後の進路や職業も含めた生活設計にもとづく家計シミュレーション	
		(3)(仮想の)ライフステージに応じた適切な住居の計画と住宅ローン費用シミュレーション	
	想定する金融商品	預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託、その他	正直、この商品選択はうらやましい

“勇者”も”レベル”も”アイテム”もない、
等身大の自分を使った”現実世界”ゲーム

シミュレーションというのは、見方によっては、ある種の異世界ゲームではあるのですが、このゲームは、全く楽しくないゲームになりそうです。

スキル表示に現われるのは、現在の自分の通知表や、志望大学の合格率で、次に大学の成績や活動実績が表示され、志望会社への入社可能性が現われて、そんでもって、就職先が決まれば、そこから想定年収が算出され、結婚、出産、住宅購入に至る基礎資料（データ）になる―― とまあ、これは、オンラインゲーム等を例にした架空のモデルではありますが ―― それでも、基本的には、このようなモノになると思います。

高校生の段階で、想定した自分の年収から、各種の金融商品を購入して、**自分の**就職、結婚、新居購入、子どもの育児・教育、老後に関する家計シミュレーションをやらされる、というのは、根拠のない夢と希望に溢れる（？）彼らにとっては、**かなりの拷問**でしょう。

そして、この高校から始まる金融教育に対して、産業界（特に金融業界）の気合が、メチャクチャに熱いのです ―― 正直、怖いくらいでした。

高校から始まる「金融教育」(4)

日本証券業協会、金融庁、銀行協会、日銀・・・正直「不気味」にも思えるほどの"プッシュ"

提供者		江端の感想
政府系	文部科学省	まあ、ここは「教科書検定」の主体だから・・・
	金融庁	24のWebページを無料公開(幼稚園まである)で凄いが、多過ぎて困る感じ
	日本銀行	沢山な資料の他、アニメなどのコンテンツも作っている
銀行・証券系	全国銀行協会	ドラマ仕立ての2分弱のYouTubeが、なかなか見せる(内容が簡単なのも良い)
	日本証券業協会	学校で使うパソコンを使った株式ゲームがある(学校が登録する必要があるみたい)
保険系	生命保険協会	こちらも、短めのドラマ風のYouTubeがある
	生命保険文化センター	https://www.jili.or.jp/files/school/yokoku/lifeplan_risk.pptx 私が知る限り、一番分かりやすい資料(ちゃんと数字が入っている)
	日本損害保険協会	やっぱり、YouTubeがそろっている

どこの組織も『講師を派遣する』とまで言っているけど、なんでこんなに一生懸命なの？

＊）表内リンクはこちら

まあ、文部科学省、金融庁（内閣府）は、教育の当事者として当然としても、日銀、銀行、証券、保険の各団体が、膨大なティーンエージャー向けの金融教育資料（テキスト、動画）をばらまいています。しかも、ななかか良いできです。私も、これらのコンテンツで勉強させてもらいました。

なぜか異様に熱い、金融庁の「金融教育」

その中でも、私が『異様な程に熱い』と感じたのは、金融庁です。

高校から始まる「金融教育」(5)

特に、金融庁が熱い

https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/program07/program703.html

パワポを使ったシミュレーションシナリオが、メチャクチャにリアル

＊）表内リンクはこちら

　パワーポイントを使ったシミュレーションゲーム『貯蓄・投資ゲーム』（上記の、”現実世界”ゲーム）のシナリオが、**とても生々しくて、私好み**です。

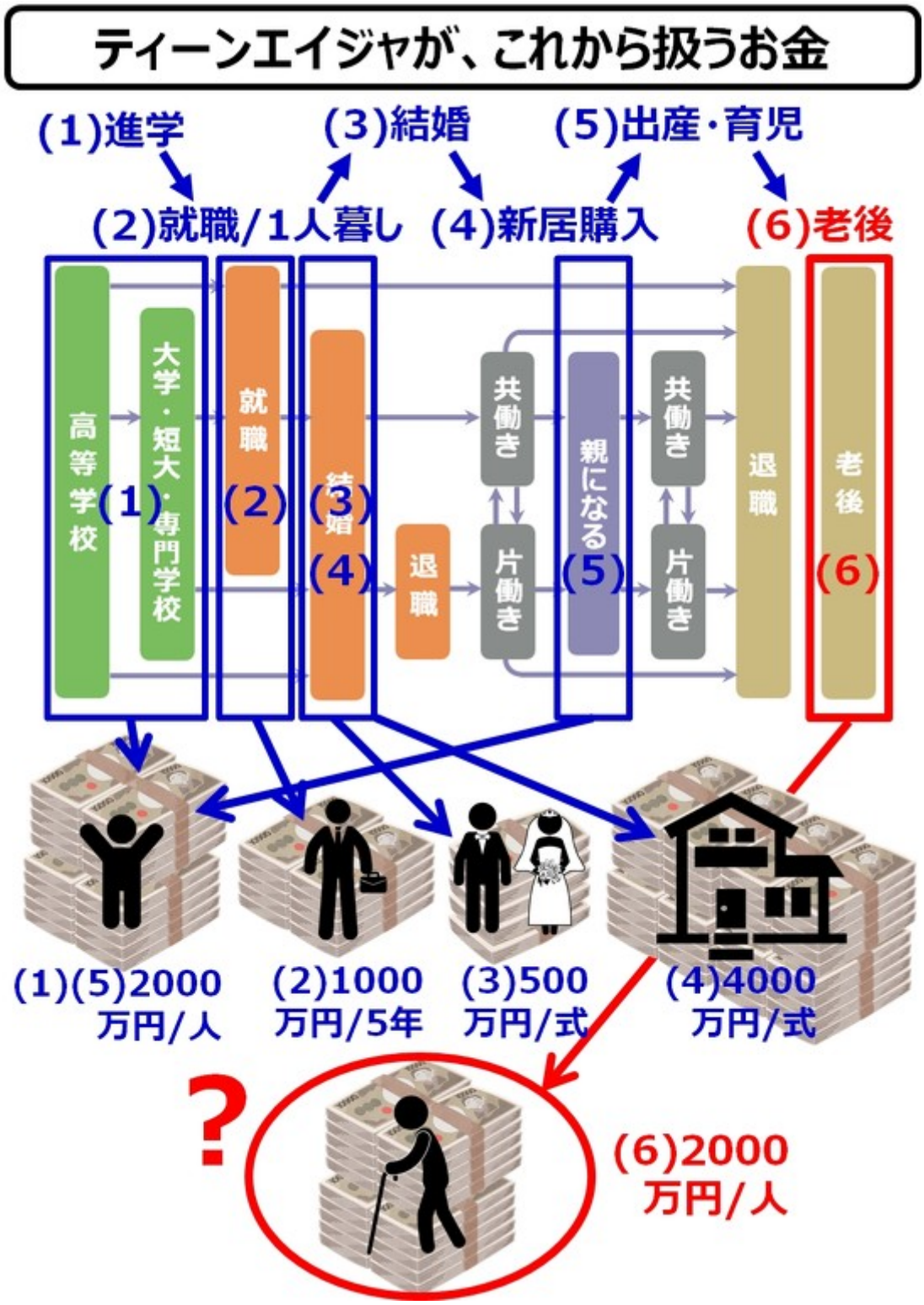
　『新興国で高成長。』やら、『ドル紙幣と金の兌換を一時停止。為替大混乱。』やら、予想される世界金融危機（というか、過去の事件（ドッジライン、オイルショック、ブラザ合意、リーマンショック等））を、イベントとしたボードゲームのようです（参照）。

　さて、ここで、『いろいろな団体が、ティーンエージャーの金融教育に手を出してきている』という事実が、何を語っているのかを考えてみたいと思います。

　最初に考えられるのは、自分の業界の金融商品の売り込みです。（後述しますが）日本人の金融商品の所有率は、かなり低いです。特に『元本保証』に関しては、病的なほど気にしている様子が伺えます。

　次に考えられるのは、少子化です。ただでさえ少ない金融商品の購買者が、これから更に減ることになれば、それは業界全体の死活問題です。加えて、2022年4月から、保護者の許諾なし18歳から金融商品を購入できるティーンエージャーへの売込み/取込みは、業界の存亡をかけた、ユーザー獲得の闘いなのかもしれません。

そして、ティーンエージャーが、これからの人生で動かすお金の額は、人生の大半を終えた、私のようなシニアとは比べものにならないほど大きいのです。



ざっくりと見える範囲だけでも、最低でも**1人当たり1億円のお金が動く** —— という規模感の市場です。これはどの業界にとっても、看過することのできないビッグターゲットでしょう。

ただ、今回調べてみて分ったのですが、高校で教える金融教育というのは、人生の半分以上を生きてきた私たちシニアから見れば、**既に実生活で体験済みの内容**です。

少なくとも「**100万円を1億円にする投資術**」というような内容ではありませんでしたので、**高校で金融教育を受けられる機会がなかったことを、くやしいと思う必要はなさそう**です。

ちょっと余談になりますが、今回、「100万円を1億円にする投資術」という手の本を手に取って見てみたのですが、どれもこれも「本人の運の話」を書いているだけのように読めました。

つまり、高い確率で投資に成功するような具体的なノウハウや理論が、ほとんどない —— というか**絶無**で、私の目から見ても「運がよくて、たまたまもうかっただけ」としか映りませんでした。ダイエット本＊1) や、ビットコイン本＊2) と同じです。

＊1）「ダイエット本のタイトルから見える、奇妙な傾向とは」、＊2）「ビットコインの“信用”を探し求めて」

江端のシニア投資戦略を考えてみる

さて、ここからは、シニアエンジニア（「専門的知識や技術力に優れたエンジニア」という意味ではなく、「シニア（高齢）のエンジニア」という意味）である、この私、江端智一の、シニア投資戦略を考える上で、いろいろと調べたことを述べていきたいと思います。

まず、投資と投機の違いについて、ざっくり調べてみました。

“投機”と”投資”の違いを簡単にまとめる

この2つを分ける客観的な指標はない(らしい)
違いがあるとすれば「判断の時間」と「リスクの大きさ」

	投機	投資
イメージ		
やり方	短期間(数分から1日)売買を繰返す	長期間(3ヶ月～数年)保有する
利益の出し方	『安く買って高く売る』を、再現なく繰返す	投資先の利益から、配当を受ける
儲け/リスク	高い/高い	低い/低い
特徴(リスクの理由)	■リアルタイムで”空気”を読む必要がある → 勘と能力と度胸	■詳細なレポートを読み取る必要がある → 根気と計算
	■誰かの”損”が自分の”利益”になる → 基本は勝負	■”利益”を予測する手法がある → 基本は解析

どっちが優れている、というものではない

どうやら、投機と投資を、きっかり分ける定義はないようです。株を売る（手放す）ことで得られるキャピタルゲインと、株の配当を得るインカムゲインの違いだけがあり、前者が”投機”、後者が”投資”と呼ばれる傾向がある、ということのようです。そして、どちらが優れている、というものでもないようです。

終日コンピュータのディスプレイをにらんで株を売買するタイミングをリアルタイムで見張っているのが”投機”、四半期の決算表を印刷して、電卓（かエクセル）で計算しているのが”投資”という、ボンヤリとしたイメージで把握することにしました。

で、私（江端）が取り得る戦略を環境から考えてみると、このどちらを選ぶべきかは、自ずと決まりました。

江端が選ぶべき方法(5W1H)

違いがあるとすれば「判断の時間」と「リスクの大きさ」

	『江端』の特性	投機	投資
いつ	基本的には休日しか対応できない →リアルタイムの取引とか無理	×	○
どこで	自宅でしか対応できない →在宅期間中でも、勤務時間中はできない	×	○
誰が	優柔不断で、小心者で、すぐに責任転嫁し、うじうじと後悔を続ける私	×	○
	数字を見れば、解析して、分かった気になれる私		
何を	債券市場の他人の心理を読み取る技量→絶無	△	○
	記載されたデータを自動解析するプログラムを作成する技能→あり		
なぜ	『個人的な定年後の金融危機』を回避したい	手段は問わない	
どのように	数字と解析で (×勘、×度胸)	×	○

江端には、“投資”しか、取り得る戦略なし

私は、基本的にゲームが好きではありませんし、オンラインゲームに至っては一度も体験したことがありません。このことより、リアルタイムの株式相場を見ながら、瞬間に判断して、売買を繰返していくというトレーダーのような作業は、到底できそうにありません。それに小心者ですので、ミスジャッジをいつまでも引きずり、簡単に心の病に陥りそうです。

比して、私は数字をいじくり倒すのが趣味ですし、簡単なエクセルのマクロや、決算表の数値を読みとるプログラムの作成などは、他の人よりは短時間でやれると思います。なにより、**プログラミングが好きです**。このアドバンテージを使わない手はないと思います。

ですので、私は、いわゆる”投資”と呼ばれているもので、勝負してみたいと思います。

「デリバティブ」って何だ……

次に、取り扱う”投資”の”商品”について調べてみました。

ちょっと、金融商品を調べてみた(その1)

金融”商品”って、なかなか『慣れない』言葉だと思う

商品種類	内容(江端解釈)
預貯金	省略。みんなご存じ「銀行」のこと
株式	皆で会社にお金を出して、会社の儲け分を貰う権利書
	分け前を貰う目的なのが『投資』(インカムゲイン)
	株券を額面以上の値段で取引するのが『投機』(キャピタルゲイン)
投資信託	専門家に丸投げして、株式や債券などに投資・運用をして貰うもの
公社債	(毎日、ニュースで出てくる)『国債』は、その一つ(これも権利書)
	(a)利息が支払われ続けて、かつ、(b)期日に額面の金額が払い戻される、という、超低リスクの債券(親方日の丸) ＃ 但し、国債や地方債の場合
	(i)国や地方公共団体が発行する債券(公共債)と、(ii)民間の企業や特定の金融機関が発行する債券(民間債)の2種類がある。
信託	自分の財産を、専門家に丸投げして、自分が決めた目的に沿って運用・管理してもらう
	「目的」の例:子どもの誕生・進学・結婚・子育て・相続

とまあ、ここまでは分かった

まあ、これらは、ここに書いた通りのことです。預貯金は、「銀行の普通預金」のことですし、株式については、今更説明は不要かと思います。「信託」「公社債」などは、「丸投げ」と「超低リスク」などが特徴として上げられる金融商品です。

で、問題はこちらです —— **デリバティブ**。

ちょっと、金融商品を調べてみた(その2)

“デリバティブ”って何？

商品種類	内容(江端解釈)	
デリバティブ	株式、債券、金利、通貨、金、原油などの原資産の価格を基準に「派生する(デリバブルする)」商品の総称	(1)先物取引:ある資産を将来のある期日に一定の価格で売買することを約定する取引
		(2)オプション取引：ある資産を、将来のある期日に、一定の価格で購入するあるいは売却する権利の取引
		(3)スワップ取引：将来発生するキャッシュ･フローを異なる経済主体同士で交換する取引

なるほど、さっぱり分からん

これ、以前からずっと気になっていて、今回調べなおしてみたのですが、やっぱり分からなかったので、この機会に、自分が納得できるまで、書籍やネットを使って、徹底的に勉強してみました —— で、ようやく、分かったような気になれたので、忘れないうちに記載しておきます。

デリバティブとは、先物取引契約から派生 （デリバティブ）した、意外な使い方をする債券です —— イメージとしては、「購入券」のようなものです。

まず、先物取引について簡単に説明します。先物取引とは、未来の特定の日時に、特定の品物を、決められた量、決められた金額で「必ず売る」、または「必ず買う」という契約のことです。

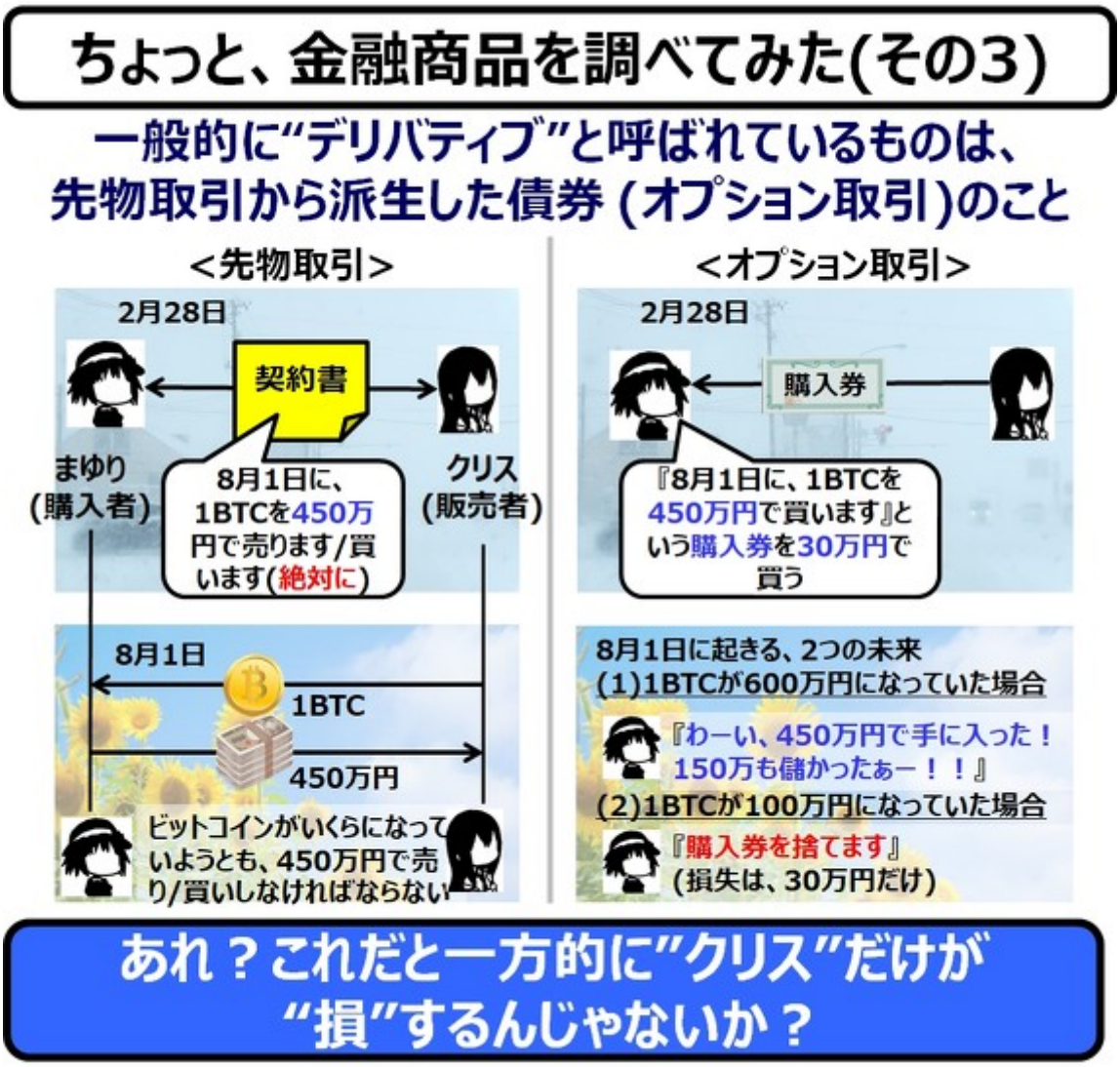
これは、農作物、石油などに良く使われます。仮に半年後の農作物が不作であろうが、豊作であろうが、品質がどんなものであろうが関係なく、取引を履行しなければなりません。

この先物取引の何がうれしいかというと、半年後の農作物の値段が確定していれば、農作物から作られる料理の値段なども、半年前に確定できると言うことです。

取引時に、実際の農作物が値上がりしていたとしても、買い手は、約束した値段で購入できますので、安心です。しかし、値下がりしていても、その値段では購入できませんので、もうけのチャンスを失うことにもなります。

つまり、先物取引とは、買い手と売り手は、一方の”得”が、そのまま、他方の”損”になるという、ドラスティックな取引なのです —— 価格の安定には貢献するので、売り手でも買い手でもない、部外者から見れば、まあまあ良いシステムとは言えます。

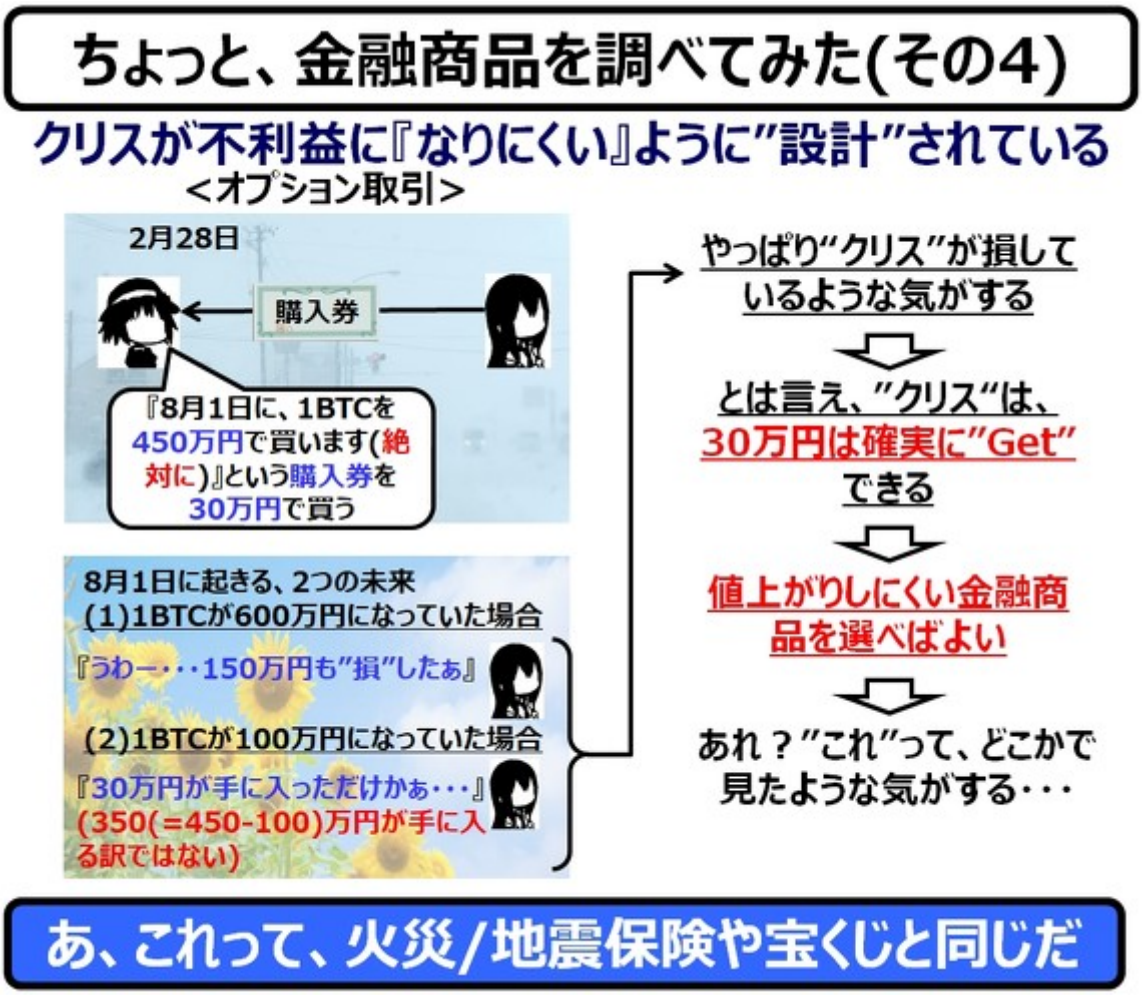
これに対して、オプション取引とは、この先物取引契約書を**土壇場で破り捨てることができる**というものです。いわゆる「都合が悪くなったら捨てることのできる購入券」です。



上図のオプション取引（右図）では、まゆりはビットコインが値上がりしていたら、必ずトクをしますが、値下がりしていた場合は、購入券を使わないで捨ててしまえば良いのです。まゆりは購入券の分だけ損害になりますが、大損害は回避できます。

あれ？　それなら、クリスだけが一方的に"損"するじゃないか？ と思いますよね。

つまり、このオプション取引の商品は、ビットコイン市場がほぼ崩壊していて、「半年後の8月1日時点で、値上がりの見込みは、絶望的」という状況下で、売られる商品なのです。



つまり、これは、クリスの勝ちがほぼ確実という状況のみで成立する商品なのです。逆に言えば、まゆりの方が「8月1日に、ビットコインシステムの奇跡的な復活と、ビットコインの値上がりに賭けるギャンブラー」なのです。

ひと言で言えば、まゆりは、30万円掛け捨ての、火災／地震保険、または、宝くじを買ったと考えれば良いのです。

もっとも、このデリバティブのオプション取引商品は、値段設定が恐ろしく難しいそうです。なにしろ、価格を設定する方程式でノーベル賞を受賞できたくらいですから。ただし、この話には（悲惨な）続きがあります。興味のある方はこちらの記事「日本最高峰のブロックチェーンは、世界最長を誇るあのシステムだった」をご参照ください。

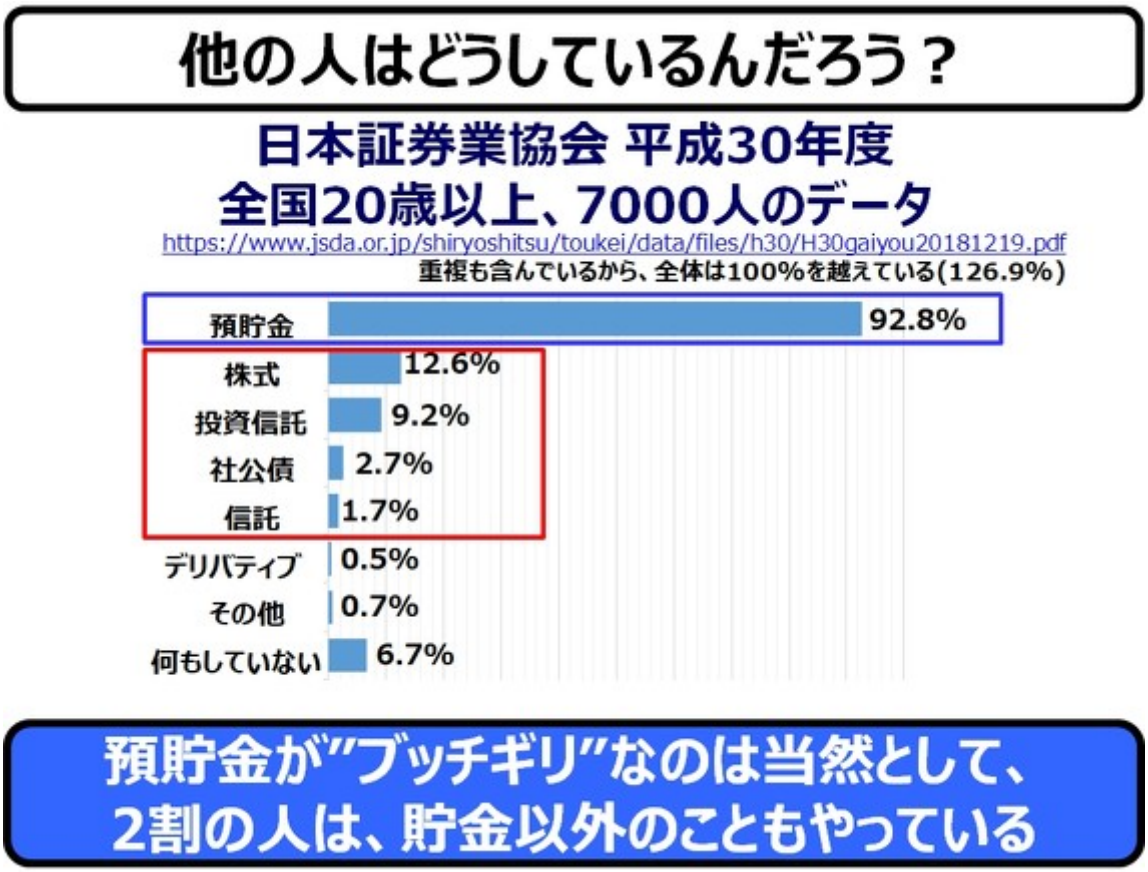
"他のみんな"はどうしているのか

さて、ちょっと寄り道しすぎました。話を元に戻します。

もう一つ調べておきたいことがありました。それは、『他の人はどうしているのだろう？』です。

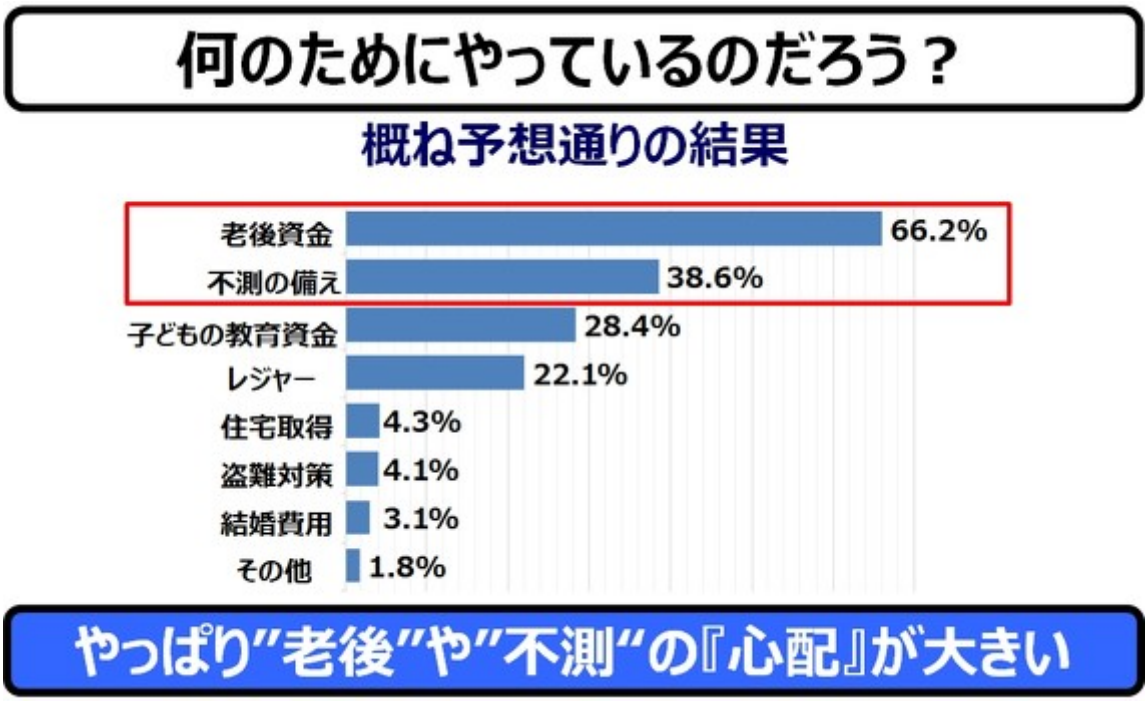
私としては、できれば手を出したくない"投資"などに手を出すのですから、他の人の動向も知っておきたいです —— というか、**私がひどい目に遭っている時、同じようにひどい目に遭っている人がいると思えば、『気がラク**』だからです。

で、こちらのデータ（「証券投資に関する全国調査」（平成30年12月18日／日本証券業協会）から、私の興味のあることだけを引用させて頂きました。



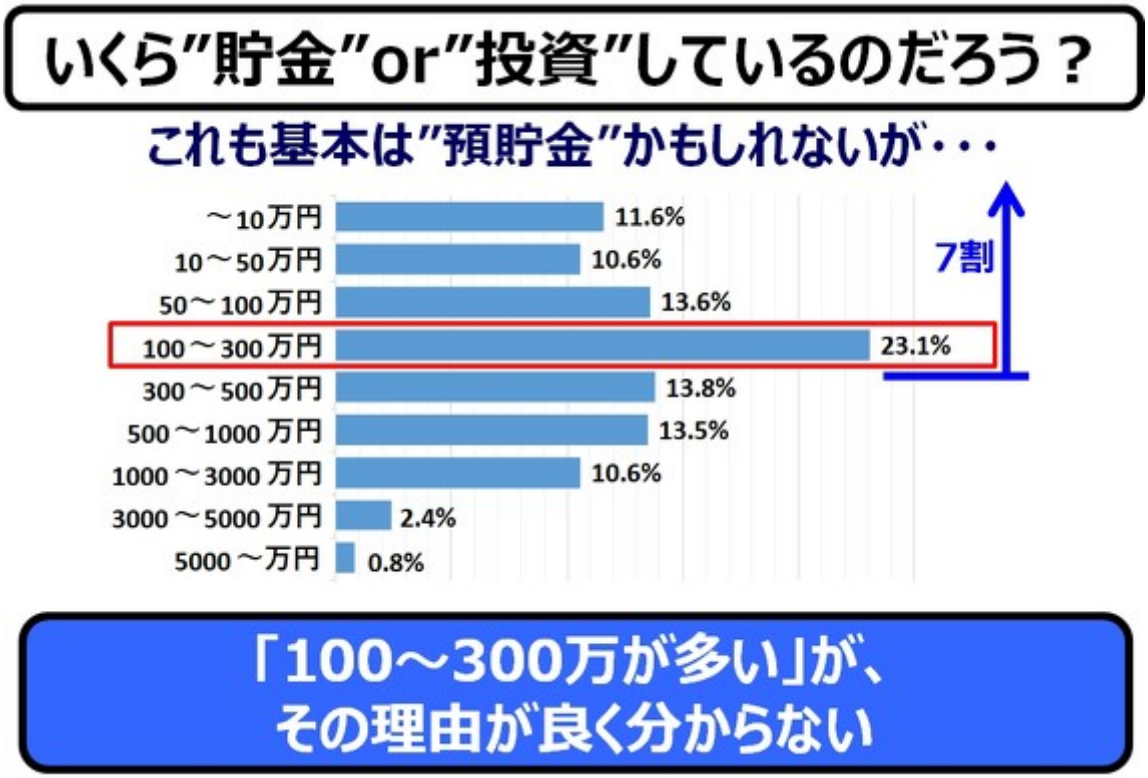
ほとんどの人は銀行の預貯金を使っていますが（まあ、当然でしょうか）、それと並行して、2割の人が、他の金融商品も取り扱っているようです。ちょっとググってみたのですが、株・投資信託の比率は、米国47%、欧州25%、日本16%という調査結果があるようです。

次は、金融商品の購入目的です。

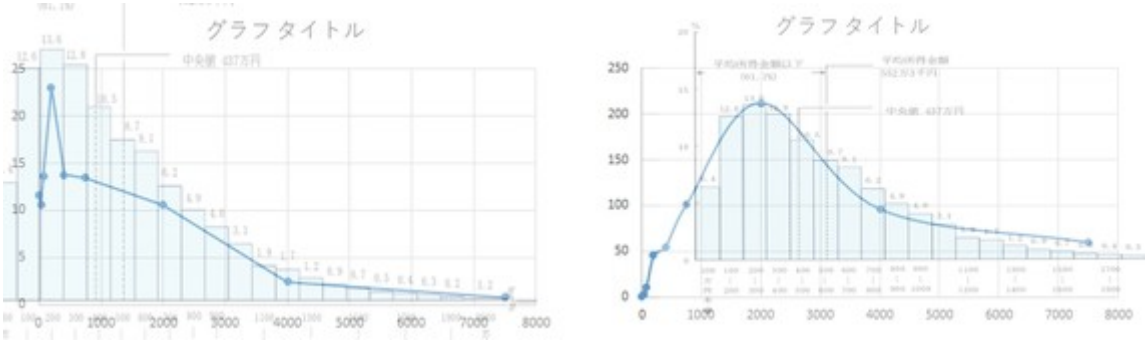


やはり、老後資金と、不測の備えが圧倒的です、これらを、株式等に投資するというチャレンジャーもいるかもしれませんが、ちょっと我が国では想像しにくいです。

次は、金融商品に貯金または投資している金額です。



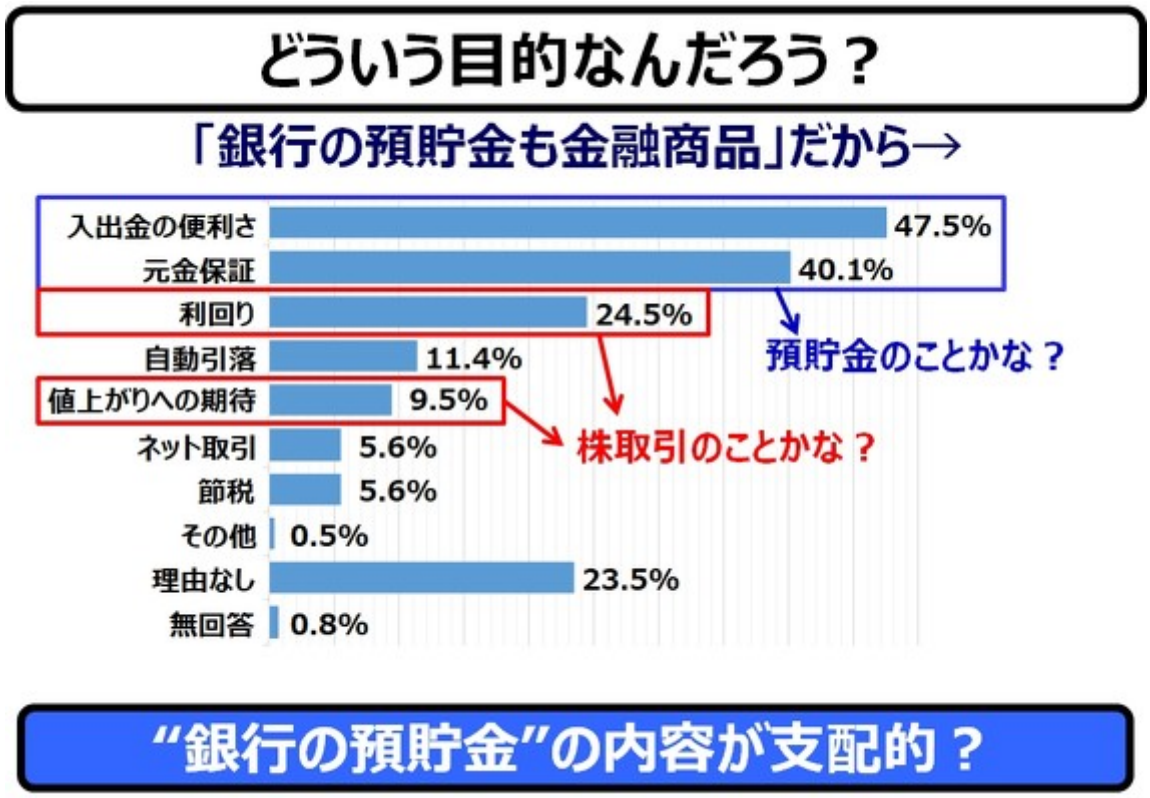
しかし、私には、この分布の理由がよく分からないのです。普通に考えれば、収入と連動していると思うのですが、これの相関関係を調べようと、我が国の所得分布と照らしてみたのですが、『これだ』と思える相関が導き出せませんでした（以下の図は、厚生労働省発表の「所得の分布状況」と、金融商品投資額を、ドローソフトで目視比較した時の様子です）



参考

ひと言で言えば、「100～300万円の間に、集中しすぎている」ということです。この金額に、何かの意味があるのかもしれませんが、私は見抜けませんでした。老後資金としては少な過ぎるような気がします。まだ、「日本の年金制度」の信用は、十分機能しているのかなぁ、とかも考えていました（今後も検討を続けます）。

最後は、金融商品を購入している目的です。



「入出金の便利さ」「元本保証」からして、やはり、我が国では、銀行の普通口座の預金が一般的であることが推認できます。「利回り」や「値上り」を狙っている人も一定数はいますが、基本的には、元本割れの可能性の高い金融商品に対して、日本人が消極的であることが見てとれます。

以上のことより、日本人の多くは上記のデータに現われるように、「老後の心配が最大の懸案」で、「”元本割れ”の可能性がある金融商品に対しては臆病である」、という、私のペルソナとほぼ同じ傾向が確認できました。

『他の人はどうしているのだろう？』という観点で調べた結果からは、「**何もしないのが一番いい**」という結論に至りそうです。この連載、ちゃんと続けることができるのか、第1回の時点で、既に心配になってきました。

では、今回の内容をまとめます。

【1】定年が近づいていることに気が付き、江端が慌てふためいている状況をリアルにお伝えし、それでも「定年制度がなぜ必要であるか」を、歯をくいしばって論じました。

【2】定年に伴って、「お金がない」という事実が現実として迫っている状況に、江端が困惑している状況もリアルにお伝えしました。そして、この「お金がない」という事実に対して、江端が今の生活水準を維持するためには、「勝負」に出なければならないことを論じて、この連載開始の動機となったことをお話しました。

【3】この連載に際して、私を取り巻く「お金」の状況を、

（1）他国と比較した**日本国の絶望的な経済状況**、
（2）**江端の**お金に関する**黒歴史と現在のマインド**、
（3）**江端の”ブログ収入”**の絶望的な状況、
（4）2022年4月から始まる、**高校生向けの金融教育**の概要、
（5）**金融商品に関するアンケート**結果、
の5つの観点を公私混同しながら、論じ、あるいは、分析しました。

【4】上記（4）については、教育を受けるティンーンエージャーたちにとっては、**「自分」を使った将来シミュレーションを強いられる**可能性があるということと、彼らが「**絶対に得をする投資方法を伝授される訳ではない**」ことを知って、まずは安心しました。また、（5）については、江端と同様に、**多くの日本人が”投資”という勝負に出たくない**と思っていることを、データを使って示しました。

『どんなに目の前が真っ暗な状況であったとしても、一所懸命、必死に、真剣に、全力でやっていれば、どこかから助けの手が差しのべられたり、運よく状況が好転したりして―― 最後にはなんとかなる』

これ、これまでの人生においておおむね外れたことがない、私の行動論でした。もちろん、例外はあります。

例えば「英語」とか、あるいは「英語」とか、それ以外には「英語」とかがそうです＊）。

＊）連載「「英語に愛されないエンジニア」のための新行動論」

そして、今回から開始した新連載における「定年」や「お金」の問題は、「英語」と同様に、この行動論の例外のようです。

私は、これまでも、いろいろなこと（例えば、コラムとか特許とか技術開発とか）、どれも手を抜かず、一所懸命頑張ってきたという自負がありますが、この「定年」や「お金」については、助けの手が差しのべられる**気配を1mmも感じられません**。そして、「英語」と違って、こちらは本気で死活問題です。

先月、母が急死し＊）、喪主を努めてきたのですが、その通夜の席で、既に現役をリタイアした叔父と会話する機会を得て、この「定年」と「お金」の話をしました。

＊）初回をひと月延期させて頂きました。申し訳ありませんでした。

叔父は、リアイア後も、現在も地域の学校に職を得て、日々を元気に過しているようです。『うらやましい』の一言に尽きました。

江端：「どういう経緯で、そういう話（手が差しのべられる）がやってくるの？」

叔父：「うーん、まあ、そうだな。つまるところ**人脈**かなぁ」

人脈 ―― それは、私にとって、絶望的に存在しないものの一つであり、そして、私自身、人脈を維持するために費やした労力は、絶無であると断言できるほどです。

もし私に『真の友人』なるものがいたとすれば、こんな過激な論を展開するコラムの連載など、体を張って止めているだろうと思うのです —— で、**私は、そういう人間を『ありがたい』とは思わず、『煩わしい』と思う奴**なのです。

結論を申し上げましょう —— 私に「人脈」というアセットはありません。

「真実は一つ！金（かね）だ！」

『将を射んと欲すれば先ず馬を射よ』 —— 大きな目的を達するには、それに直接あたるより、周辺から攻めるのが良いという諺（ことわざ）で、恋愛でも良く語られます。

本命の彼女、彼氏から攻めるのではなく、友人、両親から、徐々に攻める方が良いという、恋愛戦略として語られますが —— 嘘っぱちです。

他のことは知りませんが、こと恋愛に関しては —— 『将を射んと欲すれば「将」を射よ』が正しい。

——筆者のブログより抜粋

今回の「定年」「お金」の問題についても同じです。この問題を解決するために、「いままで以上に仕事を頑張って能力をアピールする」だの、「いきなり飲み会に出席するように努めて、交友関係の再構築に努める」だの —— そのようなことは、無駄です。

これ（お金）は、そういうアプローチが効果を発揮する性質の問題ではないのです。**『金（かね）を得たいと欲すれば「金（かね）」を得よ**』が正しい行動論です。

まとめます。新連載のコンセプトは、この一言です。

「真実は一つ！金（かね）だ！」（by ジェイムズ君（エロイカより愛を込めて））

では、新連載、「「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論」をよろしくお願いいたします。

「江端さんは“シニアアイドル”なんですよ」

後輩：「今回の連載の第1回は、江端さんの「定年」と「お金」の危機感がヒシヒシと伝わってくる良いコラムでした。恐らく江端さんと同世代の人のマインドにシンクロする新しい連載だと思いますが……で、今後、この連載を、どのように進める予定ですか？」

江端：「とりあえず、正月くらいから、『ファンダメンタル投資』とか、『決算書の読み方』とかを読み倒して、「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュフロー計算書」については、概ね理解できたと思う。これを投資サイトから自動化読み込みするプログラムを作って、私の十八番である「エージェントシミュレーター」にたたき込む、てな方向を考えているけど……」

後輩：「ああ、そりゃダメですね。ウケませんよ、そんなコラム。そもそも、ネタとして陳腐ですし、プログラミングができない人にとっては嫌みになるだけだし、「エージェントシミュレーター」なんて、技術的に論じられる人が、世界中にどれだけいると思います？　江端さんが言ったんでしょうが、「**真実は一つ！金（かね）だ！**」って。「技術」や「知識」じゃないですよ」

江端：「まあ……そうだが」

後輩：「今回、江端さんも自己検証されていますが、EE Times Japanのサイトも含めて、テキストコンテンツで『チャリンチャリン』モデルなんて、もう成立していませんよ。まあ、真面目にコンテンツでもうけたいなら、**動画**です。**YouTube**です」

江端：「そうだなぁ、テキストコンテンツはクリックしてもらわないと収益にならないけど、YouTubeは強制的にCMが入り込むから、収益性としては、まだマシかもしれない」

後輩：「そもそも、もう、私たち、**製品マニュアルを読みませんよね。最初からYouTube直行ですよね。**というか、メーカー自体、マニュアル作成に金をかける気力、完全に失っていますよね」

江端：「確かに。先月、Made in Chinaの格安3Dプリンタを購入したのだけど、マニュアルは全く役に立たなかった（日本語は2ページしかなく、翻訳もちょっと変だった）。結局YouTubeを見て組立てたよ（筆者のブログ）。

後輩：「YouTubeのビジネスが簡単ではないことは良く知られていますが、そのような厳しい動画ビジネスで渦中にあって、江端さんは、今、「美味しい立ち位置」にいると思うんですよ」

江端：「どんな？」

後輩：「江端さんが赤裸々に語る『**定年にロックオンされて、その後のメドが立っておらず、不安におびえるシニアの姿**』は、江端さんと同世代の人からは**共感を得られる**という「立ち位置」にあります。一方、不愉快な上司のパワハラに腹を立てている、下の世代の人間からは、『**ザマアミロ』と溜飲を下げられる**、という「立ち位置」にもあります」

江端：「で、それが、動画ビジネスの話にどうつながるんだ？」

後輩：「決まっているじゃないですか。「**お金に愛されないエンジニアが、YouTubeをやってみた**」という動画作成と公開です。これは美味しいですよ。なぜなら、江端さんが失敗しても「**お金に愛されないエンジニアが、YouTubeをやって失敗した件**」という次のコンテンツにつながるからです」

江端：「『私の失敗』が前提なの？」

後輩：「若い人が、いろいろやってみてうまくいかないのですから、シニアの江端さんが、そんな簡単に成功するわけがないでしょう？ でも、「**（社会的に）死に損ないのシニアがYouTubeでブザマな姿をさらす**」は、多くの世代の胸を打ち、特にシニアに勇気を与えるはずですよ ――もっとも、その10倍以上の嘲笑と炎上も受けるでしょうが」

江端：「嘲笑と炎上か……。まあ、結局のところ、私たち、インターネット創成期を担ってきた私たちが、”fj”や”Nifty”から学んできたことは、結局、YouTubeに至るまで、何も変っていないということか」

後輩：「メディアが変っても、結局ところ、『嘲笑と炎上』を『お金』に変換する方法を確立した者だけが、ネットコンテンツビジネスで勝利してきたんですよ」

江端：「嘲笑と炎上って、結構キツいんだぞ？　私、ここ10年くらいずっとコラム書いてきたけど、あれは、不快だし、なかなか慣れないものだ」

後輩：「ぜいたく言っていられる身分じゃないでしょう？　江端さんは、お金を作り出す手段はなくても、ネタを捻り出すという能力はあるのですから、これをお金に変換する方法を考えるべきなのです —— そして、私の提案は、「**『江端さんが、ことごとくお金で失敗を続ける』という動画コンテンツでお金をもうける**」という、新しい行動論です」

江端：「なんというか、トートロジーという感じもするが……。まあ、今回『どんな仕事でもやらせて頂きます』って書いたしなぁ」

後輩：「江端さんは、これまでだって、**自分のプライバシーを切り売りして、喧嘩上等で、生きてきたじゃないですか** —— 「英語に愛されない」だの、「量子コンピュータがさっぱり分からん」だの、「ビットコインは信用できん」だの、「自分の政治団体にオンライン提出すらさせられない国会議員が『デジタル化』を口にするな（筆者のブログ）」だの……」

江端：「わかった、わかった。確かに、私は、仕事で逆転を狙える年齢でもないし、今さら、どれだけ恥かこうが、知れているしな。テキストコンテンツで行き詰まっているのも事実だし……、ちょっと真面目に検討してみるよ、”YouTube”コンテンツ」。

後輩：「江端さんはアイドルなんですよ —— ”シニアアイドル”です。**江端さんのぶざまでみっともない闘いの日々が私たちの希望です。**江端さんは、私たちが同じ轍（てつ）を踏まないための、斥候（せっこう）であり、地雷原を一人歩き続ける兵士です」

江端：「それは、『アイドル』とは言わない —— 『**生贄（いけにえ）**』って言うんだ」

Profile

江端智一（えばた ともいち）

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈（しれつ）を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣（しんらつ）な切り口で語られるエッセイをWebサイト「こぼれネット」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

ITmedia Inc.